令和　6 年度　特別支援教育研究　部研究推進構想

1　研究テーマ

子どもの未来に生きて働く資質・能力の育成に向けて
～個に応じた適切な支援ができる教員の専門性の向上～

2　テーマ設定の理由

R4年度より行っている部員名簿の電算化の結果から、特別支援教育研究部の課題や部員の課題意識が見えてきた。喫緊の課題も複数あり、それらの解決に向けた研究を推進するため、まずは特別支援教育に関する経験年数の少ない部員の専門性のボトムアップをはかりたいと考えている。

特別支援学級はもちろん、通常の学級においても、従前とは違った配慮や支援が必要となる場面が多くなっている。また、支援学級の授業や行事の特殊性、医療や福祉との連携、就学支援のすすめ方など、特別支援教育の担当者となってはじめて関わるも多い。特別支援教育及び支援学級の担当として、多岐にわたる業務遂行をするために、組織的かつ計画的な研究を深めていきたく本テーマを設定した。

3　テーマに迫る具体的な視点

・夏期研究集会研究講座を開催し、講師に県内の特別支援事情に詳しい山元薫先生を招聘する予定である。山元先生には、磐周地区の現状についての統計分析を事前にお渡しし、前もって分析していただいた上で、研究テーマの改善に向けた講演をお願いしている。
・部員の実践紹介を行う回数を地区研や夏季研究集会等、年間2回ほど設定し、全部員が具体的な事例を持ち寄り、ベテランがメンターとして若手を指導・支援するような研修会を設定する。
・医療や福祉に関わる機会があるため、医療や福祉の専門家からの研修を受ける機会を設定する。

4　年次別研究推進の内容

（ア）　令和5 年度のテーマおよび具体的研究推進の内容

本年度より研究テーマを『経験年数の少ない特別支援学級担任の専門性向上』とし、経験年数の少ない教員のボトムアップを目指し、より実践的な研修を行ってきた。

具体的には、特別支援に関わる医療や福祉、行政の専門家を招いて研修を受け、指導の幅を広げるとともに、部員同士の教育現場での実践を情報交換し、経験年数の少ない部員への支援にもなるようにした。夏季研究集会では、学校教育目標と指導目標のつながりについてや、構造化を通した安心できる学習環境の構築についての発表を行った。また、通級指導教室などについても、理解を深める研修を継続的に行った。

中学校球技大会が子どもたちにとって有意義な大会となるように、将来を見据えた検討を行った。

（イ）　令和5 年度の研究成果及び課題

・部員による研究発表や実践発表を複数回実施したことで、指導や支援の在り方について考えることができた。
　また、経験年数の少ない部員の実践力をボトムアップすることができた。
・医療・行政・専門機関など学校外の方の講話を聞くことで、専門性の高めることができた。
・通級指導教室では、袋井・森・磐田地区合同によって情報交換や共通理解が進んだ。
・特別支援学級が増加しており、支援学級未経験の教員が特別支援学級の担任をすることが多くなっている。部員の課題意識に沿った研究を進める必要性を感じている。

（ウ）　令和6 年度の研究推進の方向

R4年度に引き続き、R5年度も部員名簿の電算化を行った。本年度の分析からは、部員の課題意識等を集約することができた。部員の課題意識は、1位：配慮や支援　2位：日々の授業　3位：保護者対応　4位：就学支援となっていた。特に1位の配慮や支援、2位の日々の授業については、回答者の年代や経験年数に関わりなく、多くの部員にとっての課題であることが明らかとなった。つまり、この2つは特別支援部における永遠の課題ともいうべき内容である。

この2つについての研修を深めることは、経験年数の少ない先生方だけでなくベテランにとっても有意義なことから、夏期研究講座を中心に地区ごとの研修会でも研修を深めていくこととしたい。